

平成25年9月定例会一般質問表

9. 5、6、9

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
1	2 番 高 橋 一 郎 議 員	<p>1. 災害予防対策計画について 南陽市地域防災計画で防災とは、「国土並びに市民の生命、身体及び財産を災害から保護する、行政上最も重要な施策である。」と定義している。さらに、防災目標を「安全で安心なうるおいのあるまち・南陽」に設定している。今般の7・18及び7・22豪雨災害を災害予防対策の観点から検証し、以下のことを質問する。</p> <p>(1) 7・18及び7・22豪雨による被害に関する要望書（市長と議長連名）を7月29日山形県に、8月9日国に赴いて要望されたが、特に、吉野川の抜本的な改修に対する感触と対応、これからの本市の取り組みと行動は。</p> <p>(2) 土砂災害予防体制</p> <p>① 危険区域の実態把握で土砂災害危険区域防災カルテの作成は行っているか。</p> <p>② 斜面崩壊等の土砂災害を未然に防止するため危険区域のパトロールや所有者等に対する防災措置の指導は行っているか。</p> <p>③ 人家に被害をもたらすと予想される土石流災害危険箇所については、関係住民、関係機関と連絡を密にして、土石流災害防止事業計画に基づき防止工事を推進しているか。 特に、新文化会館建設のために市内の山林を伐採しているが、土砂災害危険区域の池黒峰岸地区の杉が伐採された。伐採された急傾斜地の住民の不安と怒りの声は要望書として届いていると思います。 今年3月の臨時会で市長は「土砂崩れや水害の誘因になる急斜面のところは伐採しない」と明確に回答している。 災害の予防を実施するのが行政であるべきなのに、災害を誘因する伐採をわざわざ何故行う必要があったのか。他に伐採場所があったのではないか。その顛末はどうするのでしょうか。</p>	市長 教育長 関係課長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
1	2 番 高 橋 一 郎 議 員	<p>(3) 防災知識の普及・啓発</p> <p>① 住民に対する防災教育の中で学校教育や社会教育における防災教育は、いかに行っているか。</p> <p>② 職員に対する防災教育で全職員に対して、行動マニュアル特に初動体制の徹底は十分か。</p> <p>(4) 防災訓練と自主防災組織の強化</p> <p>① 災害時における避難勧告、指示の円滑化と迅速、確実にするため、一般住民が実際に家屋から避難する訓練を自主防災組織のもとで行う必要があるのではないか。</p> <p>(5) 災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児など）対策</p> <p>① 避難支援プラン策定の中で、特に医療行為を必要とする障がい者等の避難先として、医者等のいる施設と協定を締結することにより、避難後の安全を図るべきではないか。</p> <p>(6) 広報体制の整備</p> <p>① 広報手段として、特に大雨の場合は広報車では聞きとれないので、サイレンや警鐘を活用し、災害の種類によりサイレンが違うことの住民への周知も必要ではないか。</p> <p>(7) 避難所の充実</p> <p>① 避難指示の場合は避難者を収容する施設が避難所であるので、フローアが硬い場合はマットを準備するとか少なくとも横になれる環境を整えるべきだし、災害情報を得るためのテレビ、ラジオも各部屋に常備するべきではないか。</p> <p>② 2次避難施設 市民体育館とハイジアパーク南陽が2次避難施設となっているが、各管理者へ災害時対応についての周知と方策は十分か。</p>	

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
2	6 番 片 平 志 朗  議 員	<p>1. 災害ボランティアの受け入れ態勢の強化について 7月18・22日の集中豪雨により吉野川流域を中心として甚大な被害をもたらした。気候変動による局所的豪雨や干ばつはますます常態化している。この被害を聞いて全国各地からボランティア活動に駆けつけてくれた。その心意気に深甚なる感謝の意を表したい。 しかしそのボランティアの方々を受け入れる体制と準備について何点か反省点や課題があるように思う。以上のような観点から何点か質問する。</p> <p>① ボランティア受け入れ体制マニュアル作成しているのか</p> <p>② 機材器具等の備蓄はあるのか</p> <p>③ 反省点と課題は何か</p>	市 長
3	1 番 白 岩 孝 夫  議 員	<p>1. 災害時における広報体制について 今年7月の豪雨により本市内でも甚大な被害が発生し、1000世帯以上、人数にして3000名以上に避難勧告が発令、さらに一部地域には避難指示が発令される状況となりました。 本市は地域防災計画において、災害応急対策に関し処理すべき事務又は業務の大綱として、「予報・警報の伝達及び警戒、避難の勧告・指示等、並びに警戒区域の設定に関すること。災害情報の収集、伝達及び広報に関すること」を定めています。 今般の災害を受け、本市の対応状況と課題を確認し、今後も起こる可能性がある各種災害による被害を軽減するため、また災害時の社会秩序の維持と市民の安心を確保するために、以下の点についてお伺いします。</p> <p>(1) 7月18日と22日それぞれの、災害対応のための職員の配置状況について</p> <p>(2) 人的・物的被害、気象情報、交通情報など災害情報の収集体制・状況について</p> <p>(3) 災害情報の広報体制・状況について</p> <p>(4) 上記3点に関する課題や反省点、改善方針について</p>	市 長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
3	1 番 白 岩 孝 夫 議 員	<p>2. 小学6年生までの医療費無償化について 本市第五次総合計画の戦略の柱である「教育」「産業」「健康」のまちづくりを推進する中で、本市では前期基本計画の「健康のまちづくり」の施策基本方針として「安心して結婚できる環境や子どもを産み育てやすい環境を整えます」と謳っています。</p> <p>具体的に産み育てやすい環境作りを推進していく上で、増加する若い核家族の世帯収入が伸び悩んでいる現状を踏まえ、本市に定住する若い夫婦を支援する施策を促進する趣旨で、子育て支援医療給付事業の拡大に賛意を表します。そこで事業の現状や拡充に伴う課題、今後の見通しなどの認識について、以下の点をお伺いします。</p> <p>(1) 子育て支援医療給付事業の、近隣自治体における状況について</p> <p>(2) 今般の小学6年生までの医療費無償化拡大の政策目的について</p> <p>(3) 対象児童の学年を小学3年生から6年生に変更した理由と目的について</p> <p>(4) コンビニ受診や本市財政への影響など、事業拡大に伴う課題に関する認識について</p> <p>(5) 所得制限を課さないことの理由について</p> <p>(6) 今後の制度拡大の見込みについて</p>	市 長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求める者
4	5 番 白 鳥 雅 巳 議 員	<p>1. 災害に強い町づくりについて</p> <p>(1) この度の災害において、避難誘導また避難経路及び避難場所が市民世帯に配布された防災ハザードマップに記載表示された事項が適正であったとは言いがたいと感じ、その地区の状況に合った地域的な防災ハザードマップの検討と見直しについて伺います。</p> <p>(2) 小滝、荻、吉野地区の様な中山間地域での土砂災害危険個所の把握や法面崩落個所、また側溝の掌握等この度の災害で見えてきたのではないのでしょうか。その上で自然の脅威に対応できる行政及びその地域に居住されている地区の方々との緊密な連絡網や組織づくりが急務であると思いますが見解を伺います。</p> <p>2. 災害協力（相互応援協定）の提携推進について</p> <p>(1) 2011年3月の震災以降、災害相互応援協定を結ぶ自治体が増えております。 本市の周りの市町でもその動きが活発に進められており、その点、本市においては大きく遅れて取り残されている様に感じております。 市民の生活を守る上でも、この度の災害を機に真剣にまた積極的に検討すべきと考えますが、市長の見解を伺います。</p> <p>3. 友好姉妹都市の積極的な取り組みについて</p> <p>(1) 本市は、中国河南省南陽市と姉妹都市を結んでおりますが、これまでどのような形で取り組んで来られたのか。また、本市にとってのメリットは何なのか伺うとともに、今後もこの関係を続けていくのか。続けていくとすれば、その意義について伺います。</p> <p>(2) 本市と共通点や価値観（有効性）また特色ある市町村との交流を図り、その文化や祭り、または観光や経済的にも深いつながりを構築しながら、その市町村への小・中学校児童・生徒の交流での育成も含め、実のある友好姉妹都市の取り組みをすべきと考えますが市長、教育長の見解を伺います。</p>	<p>市 長 関係課長</p> <p>市 長</p> <p>市 長 教 育 長</p>

